

## 指導と評価の年間計画（シラバス）

### 令和4年度 社会科（地理・歴史科）

教科	地歴科	科目	地理総合	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	実教出版「地理総合」（地総702）						
副教材等	帝国書院「新詳高等地図」（地図702）						

#### 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ① 地理の学習は興味を持つことから始まります。興味を持つためにも教科書や副教材にはこまめに触れておいて下さい。
- ② 興味を持ったら、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」「なぜ」「結果は」と考えを進めて、論理的に考えて下さい。
- ③ 知識の積み重ねなくして思考することはできません。「地理用語」等覚えるべきことは一つでも多く覚えて下さい。従って、授業の復習は必ず行なって下さい。
- ④ 授業は教科書を参考に、板書による講義形式が中心となります。ノート等をきちんとその授業時間中にとって、授業に集中して下さい。提出物の期限をしっかりと守って下さい。
- ⑤ 教科書、資料集など授業に必要なものは忘れないようにして下さい。
- ⑥ 単なる暗記知識ではなく、自らの力で調べたり、学んだりした内容をもとに地理的事象の重要さや構造を理解するようになってください。

#### 2 学習の到達目標

- ① 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
- ② 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養わせる。
- ③ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めさせる。

### 3 評価の観点及びその趣旨

観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深め、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。			

4 学習の活動

学期	学習項目	学習内容（ねらい） および評価の観点	a	b	c	評価方法
1 学 期	第1編 地図や地理情報システムで とらえる現代社会	・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。	○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 (ノート等) ・ワークシート ・小テスト ・定期考査
	1. 球面と平面 2. 緯度と経度 3. 日常生活のなかの地図 4. 国家の領域 5. 日本の位置と領域 6. 国家間の結び付き 7. モノ・人・情報のグローバル化 8. 世界の交通、物流と日本 9. 観光のグローバル化	・現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ・現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・世界や地域の諸事象について、地図や地理情報システムを用いて課題を主体的に追究し、多面的・多角的な考察を通して意欲的に課題を解決しようとしている。 ・現代世界の国家間や様々な地域間の結び付きについての課題意識を主体的に持ち、それらの課題解決のために多面的・多角的な考察を意欲的に行いながら追究しようとしている。	○	○	○	
	第2編 第1章 生活文化の多様性と 国際理解 ・グループ1 自然環境と生 活文化 テーマ1 地形と生活文化 テーマ2 気候と生活文化	・地形の特徴の違いと人々の生活文化との関わりについて理解できている。 ・『アクティブ17 過去と現在の地形図を見比べてみよう』(p.215)を活用して、新旧の地形の変化を読み取ることができている。 ・それぞれの地形や気候の特徴と人々の生活文化との関わりについて多面的・多角的に考察し、レポート等にまとめるなど適切に表現している。 ・それぞれの地形や気候帯で暮らす人々が抱える課題について多面的・多角的に考察している。 ・地形条件や地形の開発などによって生じる生活上の課題について主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 (ノート等) ・ワークシート ・小テスト ・定期考査

2 学期	<p>・グループ2 産業の進展によって変化する生活文化</p> <p>テーマ1 急速な経済発展で揺れ動く人々の暮らし（東アジア）</p>	<p>・東アジアの経済発展の過程を社会変化と関連させて理解できている。</p> <p>・『アクティブ21 主題図を比較してみよう』（p.222）を活用して、主題図を作成し、中国の農業地域の特徴を読み取り、食文化と関連させて理解し、それを表現しようとしている。</p> <p>・経済発展による社会の変化について、必要な情報を収集し、まとめることができています。</p> <p>・東アジアの急速な経済発展について主体的に追究し、自らの社会生活に関連する課題について意欲的に考察し、その解決策を主体的に構想しようとしている。</p>	○	○	○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題（ノート等）</p> <p>・ワークシート</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>
	<p>・グループ3 宗教に基づいた生活文化</p> <p>テーマ1 ヒンドゥー教と結びつく生活文化（南アジア）</p>	<p>・世界の宗教分布について、p.70の地図を読み取り、特徴をまとめることができる。</p> <p>・ヒンドゥー教についての基本的な特徴を理解している。</p> <p>・宗教と社会生活の関連について主体的に追究し、課題の解決策を意欲的かつ主体的に考察・構想しようとしている。</p> <p>・宗教と結び付きの深い国々の特徴についてまとめ、表などで適切に表現している。</p> <p>・ヒンドゥー教が人々の生活文化や産業の進展に与えた影響について多面的・多角的に考察し、宗教が関係している課題について、レポートや発表等で適切に表現している。</p>	○	○	○	○
	<p>・グループ4 国家・民族・言語の結びつきと生活文化</p> <p>テーマ1 国家の統合と生活文化（ヨーロッパ）</p>	<p>・ヨーロッパの地域統合による人々の暮らしの変化について、情報を読み取り、まとめることができています。</p> <p>・p.100の地図や写真から、地域統合によって生まれてきた課題を読み取ることができ、それを適切に表現している。</p> <p>・地域統合による格差や多文化共生といった課題に対し、身近な課題と関連付けて主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。</p>	○	○	○	○

<p>・グループ5 移民とともに形成された生活文化</p> <p>テーマ3 先住民と移民による多文化社会の発展 (オセアニア)</p>	<p>・統計資料などから、オーストラリアが積極的に移民を受け入れる背景について読み取り、まとめることができている。</p> <p>・大陸部と島嶼部の生活文化について比較し、その違いを読み取ることができている。</p> <p>・オーストラリアの産業発展と移民の関わり方について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。</p> <p>・大陸部・島嶼部それぞれの社会が抱える課題について協働して多面的・多角的に考察・構想し、発表等で適切に表現している。</p> <p>・移民の受け入れと国の発展について主体的に追究し、移民増加に伴う課題等について意欲的に解決しようとしている。</p>	○	○	○	○
<p>第2章 地球的課題と国際協力</p> <p>1 人口問題の発展と対策</p> <p>2 アンバランスな人口分布</p> <p>3 食糧問題の要因と解決に向けた課題</p> <p>4 食糧問題への取り組み</p> <p>5 都市・居住問題</p> <p>6 エネルギー資源の開発と限界</p> <p>7 新たなエネルギー資源への取り組み</p> <p>8 地球環境問題：地球温暖化</p> <p>9 様々な場所で発生する地球環境問題</p> <p>10 地球的課題の解決に向けた国際協力</p>	<p>・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。</p> <p>・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解している。</p> <p>・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・地球的諸課題の解決を目指す様々な主体の取り組みへの興味関心を持つとともに、そうした諸課題を国際社会の一員として主体的にとらえ、自分事として落とし込みながら意欲的に解決のあり方を考察・構想しようとしている。</p>	○	○	○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題 (ノート等)</p> <p>・ワークシート</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>

3 学 期	<p>第3編 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第1章 自然災害と防災</p> <p>1 日本の自然環境</p> <p>2 地震・津波</p> <p>3 地震・津波への対策</p> <p>4 火山災害と対策</p> <p>5 風水害</p> <p>6 風水害への対策</p> <p>7 雪害・高温と対策</p> <p>8 防災・減災への取り組み</p>	<p>・我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。</p> <p>・様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付けている。</p> <p>・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・自然災害や防災・減災への興味関心を強く持つとともに、自分の住む地域で生じうる自然災害について主体的に追究し、平常時または災害発生時における具体的な備えや取り組み、対応のあり方について積極的に考察・構想しようとしている。</p>	○	○	○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題 (ノート等)</p> <p>・ワークシート</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>
-------------	---	--	---	---	---	--